

媒体関係各位

2020年7月3日

九州
初開催

話題沸騰中の謎の詩人・最果タヒ×イムズ

詩の立体オブジェなど館内全体で「言葉」を体感 「最果タヒ 詩のインスタレーション」 開催期間 7/10(金)～8/30(日)

イムズ(福岡市中央区、三菱地所リテールマネジメント(株)運営)は、話題の謎の詩人・最果タヒ氏とコラボレーションし、イムズの空間をひとつの作品として楽しめるインスタレーション(※)展示を7月10日(金)から8月30日(日)に開催します。

最果氏が本企画へ書き下ろした詩「真夏日の詩」を印象的に配置した最大4.4mの立体オブジェをはじめ、新作の詩9編をエスカレーターサイドやエレベーター内、手すりなど、館内17箇所に配置します。

コロナ禍によってオンラインやSNSツールなどでのやり取りが増え、これまでとは「言葉」との触れ合い方が変化してきました。そんな今だからこそ、言葉を眺め、考え、体感できる本企画は、幅広い方に様々な思いをもって感じていただけたと思います。



- ・最果タヒ氏のインスタレーション展示は九州初！
- ・最大4.4m！言葉が主役になる立体展示物

[タイトル] 最果タヒ 詩のインスタレーション

[期間] 7月10日(金)～8月30日(日)

[会場] メイン展示：B2階 イムズプラザ

その他展示：1階、3階、4階、6階、7階、12階、13階、
エスカレーターサイド、エレベーター内、大型懸垂幕

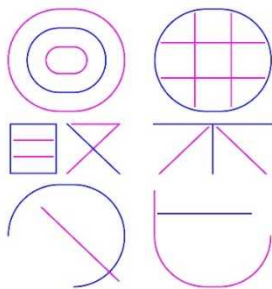
[料金] 無料

[概要] 企画のための書き下ろした詩をベースにした立体オブジェをはじめ、新作の詩9編を館内17箇所に展示。

* 展示デザイン、監修は、最果氏の詩集装丁を数多く手掛けるグラフィックデザイナー佐々木俊氏が行い、最果氏の世界観を立体的に表現しています。

* 8月8日(土)～9日27日(日)は、8階三菱地所アルティウムにて、展覧会「最果タヒ展 われわれはこの距離を守るべく生まれた、夜のために在る6等星なのです。」も開催されます。

■作者：最果タヒ氏



1986年生まれ。2006年、現代詩手帖賞受賞。2008年、第一詩集「グッドモーニング」で中原中也賞を受賞。2015年、詩集「死んでしまう系のぼくらに」で現代詩花椿賞を受賞。詩集をはじめ、エッセイや小説など著書多数。2018年に群馬県太田市美術館・図書館での企画展に参加、2019年に横浜美術館で個展開催、HOTEL SHE, KYOTOでの期間限定のコラボルーム「詩のホテル」オープンなど、幅広い活動が続く。最新刊は、翻訳小説『わたしの全てのわたしたち』(サラ・クロッサン／著)(金原瑞人との共訳)、絵本『ここは』(及川賢治／絵)。



左：
「最果タヒ 詩の展示」展示風景
(横浜美術館、2019年)
撮影：山城功也

右：
「詩のホテル」室内風景
(HOTEL SHE, KYOTO, 2019)
撮影：延原ユウキ

※インスタレーション：現代美術における表現手法・ジャンルの一つ。ある特定の室内や屋外などにオブジェ等を置いて、作家の意向に沿って空間を構成し、場所や空間全体を作品として体験させる芸術

(1/2枚)

※ 館内での取材・撮影は、取材申込書の提出をお願いしております。お手数ですが、イムズ広報担当までご連絡をよろしくお願致します

2020年7月3日

■デザイン監修: 佐々木俊氏

1985年宮城県仙台市生まれ。東京在住。多摩美術大学グラフィックデザイン学科卒業。
アドブレン、グリッツデザインを経て、2016年デザイン事務所「AYOND(アヨンド)」を設立。
2020年には「JAGDA新人賞2020」を受賞。最果タヒ氏の詩集装丁デザインをはじめ、企業
広告やCDジャケットなど、さまざまなグラフィックデザインを手がける。



(2/2枚)